

# 甦れ、「下工弁慶号」

写真&資料集 その1



提供:江崎晴彦 氏(岐阜県瑞穂市)

2012年6月現在

企画制作 「下松べんけい号を愛する会」  
編集担当 橋本暢公  
(当会に無断での複製・転載はご遠慮願います)

昭和36年2月1日発行の石川島重工業株式会社108年史(P306～P308)に弁慶号を製作した旨の記載があります。

明治40年 1907 軽便鉄道用5.5トン蒸気機関車を製作し大日本軌道株式会社へ納入した。

株式会社 IHI (IR 広報部) の著作権許諾済



(株)IHI 80年史に掲載されている写真

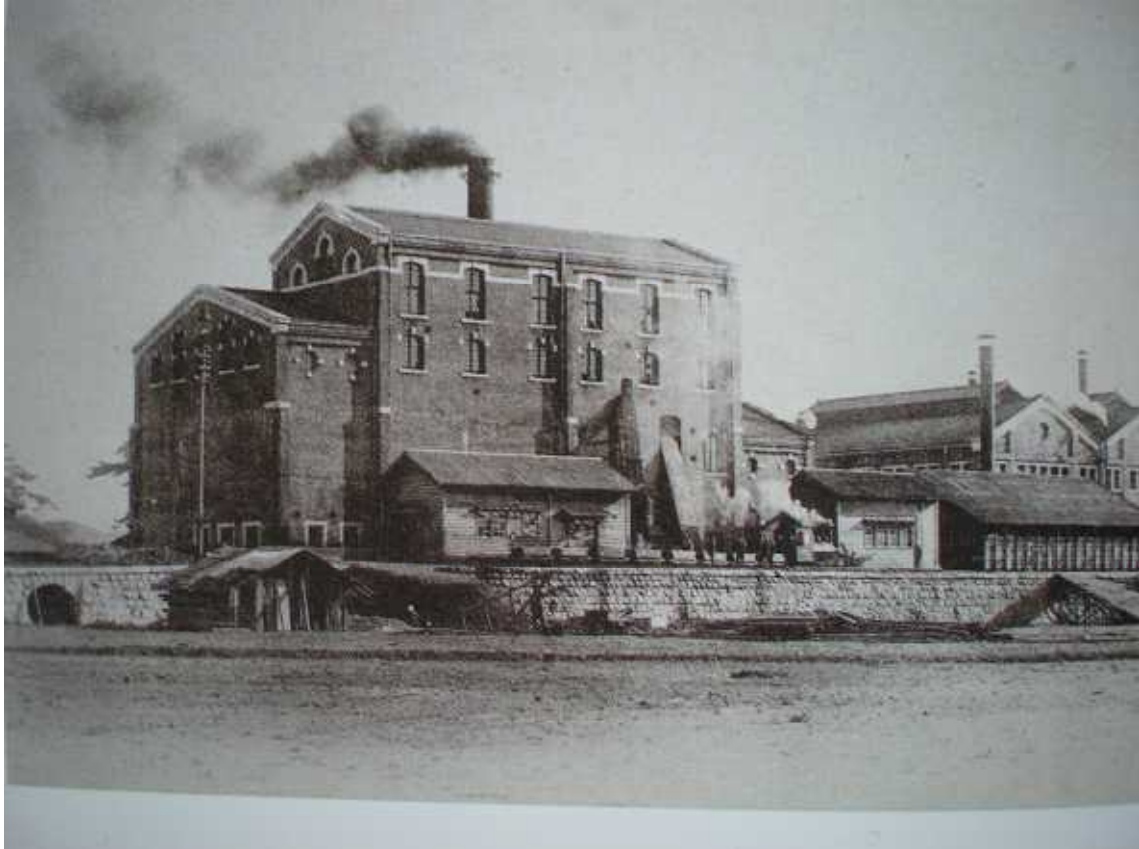


「IHIものづくり館アイミューズ」パンフレットに掲載されている写真



「石川島資料館」パンフレットに掲載されている写真

### 海軍煉炭製造所で走る弁慶号



提供:周南市美術博物館

### 1939年(S14年)実習の合間に



提供:(社)下松工業会

動かなかった時代・・・下松工業高校正門前に展示されていた時代

1959年(S34)校舎改築により前庭に設置されようとしている頃  
・・・その後、左側のコンクリート基礎上に設置された・・・



1960年(S35)下松工業高校機械科 卒業アルバムより

1960年(S35)頃、下松工業高校正門前に展示



提供:(社)下松工業会

1970年(S45)頃、下松工業高校正門前に展示



提供:(社)下松工業会

全面的な修復作業で復活し、各所で公開運転した時代

1981年(S56)、下松工業高校創立60周年で公開運転



提供:(社)下松工業会

1987年(S62)、岡山県・下津井電鉄(株)に貸出された。



提供:(社)下松工業会



提供:池田隆志氏(下松市)

1991年(H3)、下松工業高校創立70周年で公開運転



提供:(社)下松工業会

**懐かしい雄姿 明治時代のSL**

明治時代に造られた蒸気機関車の「下井慶号」が三日、柳井市宮本駅の柳井卸団地を走り、懐かしい雄姿を披露した。団地が今年で二十周年を迎えるのを記念して協同組合柳井緑合田センター(河野新一理事長、二十三社)が「団地鉄道」として開設。十六日から一般開放する。

# 下井慶号が 発車

柳井卸団地



**松並木沿いを  
200  
メートル**

**16日から  
一般開放**

「下井慶号」は、明治四十年に製造され、長さ約四メートル、三・四トン、昭和九年に徳山海軍燃料廠(しよう)から県立下松工業高校へ教材用に払い下げられた。創立六十周年の五十六年に走るように修復され、昨秋の創立七十周年記念式で校庭を走った。

同校OBで柳井緑合田センターの山本真太郎専務主任は「白い煙を吐いて走る『下井慶号』」

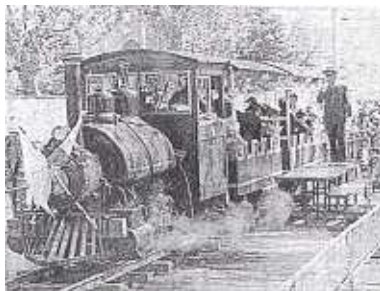
中心が貸し出しを申し込め、センターが総事業費三百万円、団地内の松並木沿いに長さ二百メートルのレールを敷き、車庫などを整備した。

この日は、二十三社の社長らが総集。旧長崎柳井機関区OBの太田豊さん(左)と高東一男さん(右)が運転士を務めた。汽笛一響、井慶号は白い煙を吐きながら、十五人乗りの客車二両を引いてゆっくりと走り出した。

団地鉄道は二十周年記念日の十一月八日まで運行。料金は往復一人百円。「SL」に乗る楽しみながら団地が流通に果たす役割を垣間見たい。センターは、東部の二市三郡の小中学校、幼稚園、保育所などに利用を呼び掛ける。問い合わせは、センターOBの090(0)3333-1へ。

提供:(社)下松工業会

1993年(H5) 末武公民館祭りで公開運転



提供:(社)下松工業会

1994年(H6) 下松市制55周年記念式・切戸川桜々フェスタ 94で公開運転(記念テレホンカード)



提供:(社)下松工業会

1996年(H8) 日立製作所笠戸事業所75周年記念イベントで公開運転



提供:梅田 清 氏(周南市)

下松市役所グリーンプラザで展示格納の時代

人気者の小型SL「下工弁慶号」90歳

下松市役所前広場

天寿全う、現役、引退

市修理断念、展示保存へ

下松市の下松市産業振興協会から市に譲渡され、市役所前に置いてあった小型蒸気機関車「下工弁慶号」が、心臓部であるボイラーの故障を治れなくなった。修理には費用がかさむ一方で、安全上の問題を主とするため、市は修理をあきらめた。製造から九十年。文化財としてこれらから守るべきは無い。

もう忘れなくなった小型SL「下工弁慶号」=下松市役所前広場で

## 式次第

- 1 開式のことば
- 2 市長あいさつ
- 3 来賓祝辞
- 4 経過報告
- 5 テープカット
- 6 閉式のことば

下工弁慶号及び展示格納庫



提供：(社)下松工業会

## 下工弁慶号展示格納庫建設経過報告

◆展示格納庫の概要  
 建設場所 下松市大字町3丁目3番3号  
 下松市役所グリーンプラザ内  
 建築面積 12.81㎡  
 構造 鉄骨造平屋建  
 工期 平成8年8月26日～同年10月31日  
 付帯設備 レール盤置(外部)5m  
 照明機 1台  
 ステップレス製ボール盤式  
 施工 株式会社制宣ドック  
 笠戸建設株式会社

◆建設事業費 7,402千円  
 展示格納庫設置工事費 5,458千円  
 展示格納庫基礎工事費 844千円

◆下工弁慶号の概要  
 明治40年に石川島造船所で製作された日清ヤマトタングの蒸気機関車で、その形状から角の平とも呼ばれる世界的にも価値の高いものである。  
 昭和3年まで徳山海軍練習艦隊所が所有していたが、山口県立下松工業学校が当時60円で譲り受け、旧海軍実習等に使用され、「下工弁慶号」の名称で置かれていた。  
 戦後は、同校の校庭にモニュメントとして展示されていたが、昭和58年に生徒と教員で修繕し、その後、市内外でのイベントで一般公開展示されてきた。  
 昭和63年に同校同窓会の社団法人下松工業会に移管され、今なお所持する唯一の機関車であり、貴重な文化的遺産として長く保存管理するため、平成8年10月下松市に寄贈された。

【仕様】 全 長：4,050mm  
 重 量：5.5t  
 車 軸 距：7,020mm  
 本体製輪：2輪





2006年(H18) 北勢線で動態復元した弁慶号の雄姿



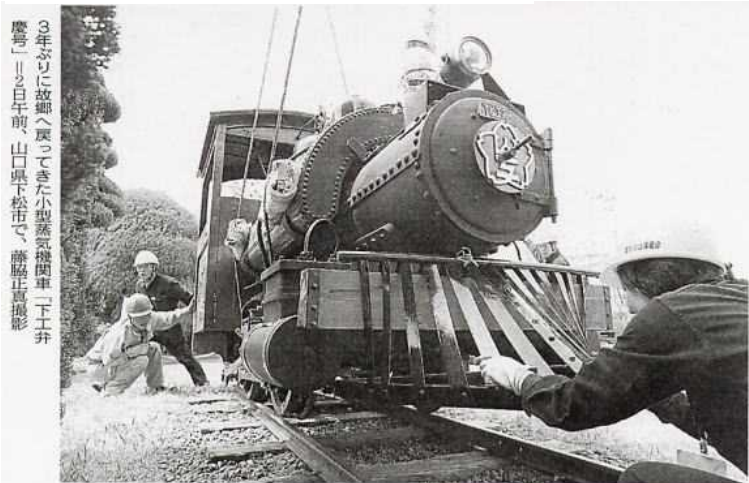
提供:江崎晴彦氏(岐阜県瑞穂市)

2006年(H18) 4月18日下松工業高校前 公集大橋の欄干に弁慶号発見



提供: 橋本暢公 氏(下松市)

2007年(H19) 4月 三重県・北勢線から帰郷



3年ぶりに故郷へ戻ってきた小型蒸気機関車「下工弁慶号」11日午前、山口県下松市で、藤原正喜撮影

### 100歳弁慶号 下松に帰郷

3年ぶり、三重から

1907(明治40)年製の小型蒸気機関車(SL)「下工弁慶号」が2日、山口県下松市役所前広場に3年ぶりに帰郷した。三重県の私鉄活性化協議会が、管理を委託された。

1907(明治40)年製の小型蒸気機関車(SL)「下工弁慶号」が2日、山口県下松市役所前広場に3年ぶりに帰郷した。三重県の私鉄活性化協議会が、管理を委託された。

の(一部)と貸し出された。100歳のSLはまだ走れるが、市はガラス張りの格納庫で展示する方針だ。

身長4・05m、高さ2・4m、重さ5・5t。旧徳山海軍燃料廠で石炭輸送に使われた。現在の下松工業高校が教材用に譲り受け、市には05年に寄贈された。

貸出先は、三岐鉄道北勢線(西桑名)阿下喜間(20・4km)の地元、三重県桑名市がつくる重工業活性化協議会が管理を委託された。

た。住民団体の会長は、火を毎月入れて維持してきた。下松でも走ってほしい」と話した。



提供: (社)下松工業会

H19.4.3「読売新聞」

## お帰りなさい「下工弁慶号」

# 3年ぶり雄姿

三重県内の鉄道から返還

三重県の三岐鉄道北勢線(桑名市)いなべ市間(20・4km)の活性化のため、展示されていた。下松市が無償で貸し出した小型蒸気機関車「下工弁慶号」が返還され、3年ぶりの帰郷を祝う式典が2日、格納庫のある市役所(いなべ市)の阿下喜駅構内に格納庫と全長約80mの専用レールが設置され、月グリーンプラザで開かれた。

下工弁慶号は1907年(明治40年)に東京石川島造船所(現・石川島播磨重工業)で製造された。旧徳山海軍燃料廠で石炭運搬に使われた後、旧下松工業学校(現・下松工業)で実習教材となった。96年に下

この日の式では、下松市の井川成正市長が「大切に活用してもらい、下工弁慶号にとって実りの多い3年間だった」とあいさつ。出席者が弁慶号を押し、ガラス張りの格納庫に収められた。

清潔感あふれる30代からの『お出かけ』Lady's pe pe

2007年(H19) 7月10日～9月9日 「大鉄道博覧会」(江戸東京博物館)で展示された

2007年(H19) 6月25日 貸出しのため積まれる弁慶号



提供: (社)下松工業会

2007年(H19) 9月 「大鉄道博覧会」の様子



提供: 橋本暢公 氏(下松市)



提供:野田泰典氏(下松市)

国内最古のミニSL 下工弁慶号

# 外観図面生徒が製作中



下工弁慶号の採寸作業に取り組み下松工高の生徒たち

現存する国内最古の小型蒸気機関車とされる下松市所有の「下工弁慶号」(全長4.05m)の外観図面(外形図)の製作に、下松工高システム機械科の3年生4人が取り組んでいる。市には外形図が残っていないため、完成後は市に寄贈することにしており、貴重な資料となりそうだ。

100年前の1907年(明治40年)に製造された「下工弁慶号」は、旧下松工業学校(現下松工高)で実習教材として使われたこともあり、96年に下松工高同窓会から市に寄贈された。最も近3年間は三重県の三岐鉄道北勢線に貸し出されていたが、4月に戻ってきた。同日の「研究課題」の授業時から、同校の園部雅史教

諭(40)が生徒に、外形図の製作を提案した。

## 3方向から測定、記録—根気の作業

現在、2人1組で採寸作業に取り組んでいる。1人がノキスやメジャーで車輪の直径や煙突の長さ、車体の曲線の半径などを測定し、もう1人が手書きの図面に数値を書き込んでいく。正面、側面、後方の3方向から、ボルト一本に至るまで寸法を測る根気のいる作業だ。これまでに4回行い、半分程度まで進んだ。採寸終了後は、コンピューター利用設計(CAD)で図面を仕上げると、同校の園部雅史教諭(40)が生徒に、外形図の製作を提案した。

下工弁慶号は7月から2か月間、東京で開かれる大鉄道博覧会で展示される。卒業までに外形図の製作に取り組める期間は、正味4か月余りしかない。メンバーの一人、山根恵介君(17)は「曲線が多く、測るのが難しいけど、絶対完成させる。できるだけ正確な外形図を残したい」と意気込んでいる。



鉄道博物館「弁慶号」



交通科学博物館「義経号」



提供: 栗田一郎 氏(下松市)

2011年(H23)7月3日 幹事会



提供: 栗田一郎 氏(下松市)・橋本暢公 氏(下松市)



提供: 栗田一郎 氏(下松市)



2011年(H23)7月10日 役員有志が草刈を行いました



提供: 大木孝行 氏(下松市)

2012年(H24)6月21日 幹事会



提供: 池田隆志 氏(下松市)

# 「弁慶号」ミニSL製作へ



下井弁慶号とミニSL製作を計画するメンバーたち

下松市役所前広場に展示されている蒸気機関車(SL)「下井弁慶号」の保存、活用に取り組む同市のグループが、ミニSLの製作を計画している。弁慶号が持つ国産SLとしての国内最大級の寸法とされる。完成すれば各地のイベントで走らせる構想で、近く製作費に充てる寄付金を募る。 (緒方裕明)

## 下松の「愛する会」が計画 存在をPR、寄付金募る

テストを企画して存在をPRし、製作費に充てる寄付金を募る。ミニSLの大きさは極めていないが、動力付きで走らせることができる。製作費が約10万円と想定している。

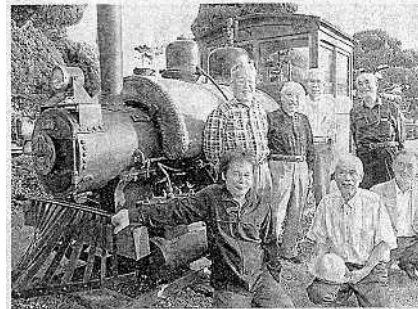
弁慶号(長さ4.05m、幅1.53m、高さ2.40m、重さ3.5トン)は1907年に東京の石川島造船所(現日立)で、米田・ポールドワイヤン(Paul Dwyer)と、同会事務局長の栗田(栗田)の2人が、下松工業学校(現下松工業高)に実習用機材として払い下げられ、「下井弁慶号」と呼ばれるようになった。

# 走れSL弁慶号

105年前に製造された街の顔にしたい」と意気込んで、下松市役所前に展示されている蒸気機関車(SL)「下井弁慶号」の復元模型を走る。川島造船所(現東京石井)で、地元有志が1で製造された。量産されて現存する最古の国産SLは大阪市の交通科学博物館にある1903年製造の2800形蒸気機関車という。周南市の旧海軍徳山練炭製造所内で貨車をけん引した後、34(昭和9)年に同高の前身

## 有志 復元模型製作へ 下松市役所前に展示

の下松工業学校で実習機として使われた。運動会では、校庭に敷いたフェルトの上を生徒が走らせたという。51年に引退したが、81年に生徒らが修理し、同窓生らでつくる社団法人や市が2007年まで県内外の催しに貸し出していた。「貴重な遺産を眺らせておくのはもったいない」。弁慶号の保存に活用するため「愛する会」が昨年4月に発足。23日には会員7人が



「近代工業遺産としてまちの顔にしたい」と意気込む「下松べんけい号を愛する会」のメンバーたち

今では県内外の鉄道ファンも加わり会員は約100人に。今月13日にあった第1回総会に、現物の修理は困難とみられることから、10分の1大のミニチュア復元模型(長さ約40センチ、幅約20センチ)を作ることにした。構造は本物とほぼ同じ。製作費約300万円は、金に頼ることになった。23日には会員7人が復元模型の図面作りのために弁慶号を写真撮影した。在学中、運動会で弁慶号が走る姿を覚えている河野知敏さん(81)は「SLを見たことない子どもたちもきくと好きになる。下を愛する会(080・1946・5118)」。【浦原明佳】

## 山口・下松市役所前に展示 地元有志 復元模型製作へ



105年前に製造された街の顔にしたい」と意気込んで、山口県下松市役所前に展示されている蒸気機関車(SL)「下井弁慶号」の復元模型を走る。川島造船所(現日立)で、地元有志が1で製造された。量産されて現存する最古の国産SLは大阪市の交通科学博物館にある1903年製造の2800形蒸気機関車という。周南市の旧海軍徳山練炭製造所内で貨車をけん引した後、34(昭和9)年に同高の前身製作費約300万円は、金に頼ることになった。23日には会員7人が復元模型の図面作りのために弁慶号を写真撮影した。在学中、運動会では、校庭に敷いたフェルトの上を生徒が走らせたという。51(昭和26)年に引退したが、81(昭和56)年に生徒らが修理し、同窓生らでつくる社団法人や市が2007年まで県内外の催しに貸し出していた。「貴重な遺産を眺らせておくのはもったいない」。弁慶号の保存に活用するため「愛する会」が昨年4月に発足。23日には会員7人が復元模型の図面作りのために弁慶号を写真撮影した。在学中、運動会で弁慶号が走る姿を覚えている河野知敏さん(81)は「SLを見たことない子どもたちもきくと好きになる。下松の名物になってほしい」と話した。

# 走れSL弁慶

105年前に製造された街の顔にしたい」と意気込んで、山口県下松市役所前に展示されている蒸気機関車(SL)「下井弁慶号」の復元模型を走る。川島造船所(現日立)で、地元有志が1で製造された。量産されて現存する最古の国産SLは大阪市の交通科学博物館にある1903年製造の2800形蒸気機関車という。周南市の旧海軍徳山練炭製造所内で貨車をけん引した後、34(昭和9)年に同高の前身製作費約300万円は、金に頼ることになった。23日には会員7人が復元模型の図面作りのために弁慶号を写真撮影した。在学中、運動会では、校庭に敷いたフェルトの上を生徒が走らせたという。51(昭和26)年に引退したが、81(昭和56)年に生徒らが修理し、同窓生らでつくる社団法人や市が2007年まで県内外の催しに貸し出していた。「貴重な遺産を眺らせておくのはもったいない」。弁慶号の保存に活用するため「愛する会」が昨年4月に発足。23日には会員7人が復元模型の図面作りのために弁慶号を写真撮影した。在学中、運動会で弁慶号が走る姿を覚えている河野知敏さん(81)は「SLを見たことない子どもたちもきくと好きになる。下松の名物になってほしい」と話した。

「しゅうなん元気ものフェスタ」出展  
2011-12/4 周南市 山口県周南総合庁舎2Fさくらホール

**第6回 周南地域市民活動団体等交流会**

**みんなで遊びに おいでよ~!**

**交流 フェスタ!**

2011年12/4日 10:00 ~ 15:00 **入場無料**

会場 山口県周南総合庁舎

**わくわく子ども体験ゾーン!** エントランスホール(1F)

周南地域で活動をしている元気な人たちが大集合! 年齢別、活動内容の異なるグループ、その時々参加も自由。「得意技を持って来い!」などの活動をしているの? と興味を持って、みんな来てみてよ!

**プログラム\***

- 10:00 オープニング 暖かいさつ
- 10:00 ~ 15:00 展示物展示・販売 体験教室・パネル展示 バザー 詳しくは裏面
- 14:30 ちよるとしけんけん大さき
- 15:00 エンディング 暖かいさつ

主催：周南地域市民活動団体等交流会実行委員会（下松市・光市・周南市・周南厚狭町）  
問い合わせ：TEL (0834)33-6401 山口県周南総務課まで

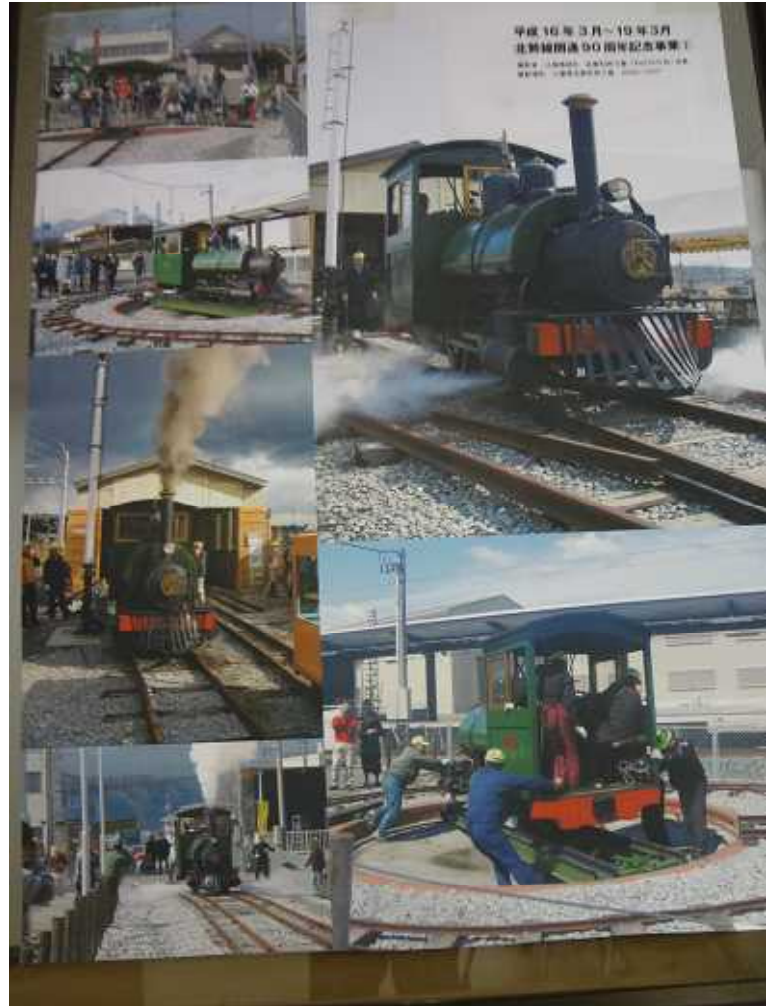
## 出展ブース紹介

中山間地域	2F さくらホール	下松地域	2F さくらホール
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長野山生改選 長野山生と協賛したつづり運動加工部会</li> <li>● 大瀬田舎の店 本町商店街の賑わい 豆腐もたいやん、大瀬田舎、おにぎり屋、おにぎり屋、おにぎり屋</li> <li>● (有) 西野ファーム 生産者と消費者の交流活動 加工部会</li> <li>● (株) かの高原開発 せせらぎ・豊産里パーク 農業体験施設 せせらぎ</li> <li>● 未来を育む連村村塾 農村での教育活動</li> <li>● 七郎会 農産物のブランド化活動(みのかん農産物・安全)</li> <li>● 漆川をよくなる会 漆川をよくなる会 漆川をよくなる会</li> <li>● 種田清流の会 「アツコ」のつづり運動 種田清流の会 種田清流の会</li> <li>● さかなをシゴくちゅうろ会 魚食文化活動(せせらぎのせせらぎ)</li> <li>● 須倉・ぶどう・梨生産組合 生産者と消費者の交流活動</li> <li>● 周南地域農山漁村女性連携会議 周南地域農山漁村女性連携会議 周南地域農山漁村女性連携会議</li> <li>● 周南地域食と森と水の連携フォーラム実行委員会 周南地域食と森と水の連携フォーラム実行委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● NPO 積極講話 「心の交流、心の力」をテーマに積極講話セッション活動を行っています。</li> <li>● 周南農産物加工部の会 パンナムでの地産農産物消費や周南地区でのパナム入居学生への実習など。</li> <li>● ヤッからアムコイリスの会 コレオレオ活動の紹介と、手紙制作やその他商品販売を行っています。</li> <li>● 下松 BBS 会 非行にあって青少年と関わり、非行を防止していく活動団体です。</li> <li>● 下松べんけい等を愛する会 「アツコ」のつづり運動の紹介と、アツコにまつわる活動を行っています。</li> </ul>		
光地地域	2F さくらホール	行政	2F さくらホール
<ul style="list-style-type: none"> <li>● NPO 法人 菜のかげ橋 道の駅・道の駅に「おみやげ」のつづり運動を推進しています。</li> <li>● 光風芝居 光風の風情や歴史をテーマに、子ども向け演劇を行っています。</li> <li>● ひかり市民活動協議会 市民活動活性化に向けての情報発信、セミナー、イベント等の企画運営。</li> <li>● 光市情報学習推進協議会 「アツコ」活動により、情報学習を推進する活動のつづり運動。</li> <li>● NPO 法人 シニアネット光 光市市議会、周南地域生活事業、行政との連携事業のつづり運動、活動のし。</li> <li>● NPO 法人 光まぢづくり NPO 「こどもを大切に育て、育てた子どもを大切に」をテーマに、人づくり事業。</li> <li>● NPO 法人 光けんじのがっこう 周南地域の精神と文化をテーマに、教育の発展に貢献しています。</li> <li>● 薪はなし広場 工芸品の制作を行っています。お土産のつづり運動やイベントを開催。</li> <li>● 光がんどき亭 「おみやげ」のつづり運動を推進。市民活動センターで活動しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 周南山域消費者生活協賛対策実行委員会 消費者生活協賛対策実行委員会 消費者生活協賛対策実行委員会</li> <li>● やまぐち農産物支援センター 農産物の販売促進、加工、販売のつづり運動を推進しています。</li> <li>● 周南3市市民活動支援センター 下松市、光市、周南市の市民活動を支援しています。</li> </ul>		
子ども体験ゾーン	1F エントランスホール		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ガムスタック山口県民10歳 周南地域の紹介、周南地域のつづり運動を推進しています。</li> <li>● 光人招き猫協会 人招き猫のつづり運動を推進しています。</li> <li>● エントランスリズム ガムスタック制作教室</li> <li>● 山口ワイヤークラフトワーク コレオレオ活動</li> <li>● Nanumi Candle 非行防止活動</li> <li>● ふれあいの森なんでも工房 非行防止活動</li> <li>● NPO 法人山口県アツコシアタロウ協会 周南地域のつづり運動を推進、活動のつづり運動を推進しています。</li> </ul>			



提供：栗田一郎 氏(下松市)

市民活動ギャラリーへ出展  
2012-2/25～3/31 JR徳山駅3F 市民活動支援センター



提供:橋本暢公 氏(下松市)



# 詳しい年表

2012年6月30日 改訂 (栗田一郎氏 編)

西暦年	年号	記 事	備 考
1850ころ	江戸時代末期	「蒸気機関車模型ナポレオン号」...フランスから長州藩に対して、蒸気機関車模型や鉄道技術が紹介された。	「ナポレオン号」の機関車模型は、わが国に4台現存しており、そのうちの1台が山口県立博物館に展示されている。 ttp://db.yamahaku.pref.yamaguchi.lg.jp/script/detail.php?no=473
1872	明治05年	国内に現存する最古の蒸気機関車が、1871年にイギリスの造船会社 VALCAN FOUNDRY CO.LTD で生産され、日本に輸入されて、この年に、新橋・横浜間で、開業運転した。	保存場所:鉄道博物館(さいたま市、JR東日本)。後の国鉄の分類では、「150形式蒸気機関車 車号150」と、表示されている。本機の銘盤には 614 とある。この保存されているSLは、当時の機関車数台から各部品を集めて、復元したもの。
1880	明治13年	旧鉄道院の「弁慶号」などが、アメリカ ピッツバーグの H.K.PORTER & CO.LTD で製造され輸入された。	「義経号」「静御前」など合計8台のSLが輸入されて、北海道開拓に使用された。「7100形式」と分類されている。この後、1881年に「1290形式(善光号)」が輸入されている。
1903	明治36年	国内に現存する最古の国産SLの、「230形式」が、大阪の民間会社で生産された。弁慶号よりも、4年、古い。  以下、「下工弁慶号」についてのみ、記述する。 以下の 印の事項は、(社)下松工業会ホームページからの引用である。	交通科学博物館(大阪市内、JR西日本)に保存されている。汽車製造合資会社(大阪)製造。「233形式 11」の銘盤がある。説明板には「現存する国産最古のSL」と明示されている。汽車製造合資会社は、明治29年 安治川で創業。本機は1967年(昭和42)、国鉄鷹取工場で動態復元されて今日に至る。(文責:栗田)
1907	明治40年	「下工弁慶号」が大日本軌道(株)の発注によって、東京石川島造船所(現:IHI)で製造された。但し、海軍徳山煉炭製造所に何年に、どういう経緯で納入されたのかは、不明。	出典:「東京石川島造船所50年史」この中の写真によって、同機と判断されるが、但し、この資料には、この時に製作された台数については、記述がなかった(この項、文責、栗田)。(注記)当時は「下工弁慶号」という呼称は、まだなかった。
~1934	~昭和09年	この年まで、徳山煉炭製造所(後の海軍燃料廠)の構内で、煉炭や石炭輸送に使用していた、とされている。	周南市立中央図書館で「徳山海軍燃料廠沿革史」を調べたが、本機についての記事は、発見できなかった。しかし、「児玉源太郎展」(周南市立美術館 2012年)において、大正時代初期に徳山・鳳鳴館が発行した「煉炭製造所の絵葉書」の中に本機が貨車8両を曳く姿が写っているのを偶然に発見したので、同館のご協力を得て当会のホームページに収載した。(文責・栗田)
1934	昭和09年	下松工業学校(当時、現在の下松工業高等学校)に払下げられて、原動機実習機材として使用されていた。(対価は、60円といわれている)	徳山から下松の平田川の河口までは、海上を舁(はしけ)を使って運搬した。河口からの陸上は丸太を並べ、その上に厚い足場板を置いて、学校まで移動したという(当時の生徒の後日談)。
1951	昭和26年	実習に使われるうちに動かなくなり、また保管状態が悪かったので、風雨にさらされて、「スクラップ化」する危機に陥った。	しかし、同校の卒業生から「保存して欲しい」という多くの要望があった為、学校の正門脇に保存展示されることになった。また、この頃から「下工弁慶号」という名前が付いたとされている。
1965~	昭和40年~	国鉄の電化進展によって、各地でSLが廃止された。	昭和48年には、山口線のSLも廃止された。
1979	昭和54年8月	鉄道ファンの熱意によって、国鉄が「C571」を修復して、新山口・津和野間に、「SL やまぐち号」として営業運転を復活して、現在に至っている。	C57型SLは、昭和12~22年に201両が製造されたが、やまぐち号はその1号機である。動輪直径は、175cm。その優美な外観から、SLファンには「貴婦人」と呼ばれている。この記録のDVDが発売されている。(栗田)

	同年 1 月 ～	下松工業高校の職員・生徒達により、弁慶号の全面修復作業(完全分解 整備 組立)が始まった。また、この時同時に「C621 機の 1/8.5 モデル」を製作して、山口県立博物館に寄贈している。その時の状況は、8mm フィルムカメラで記録編集されている。	この修理の記録ビデオが、平成 14 年に JR 西日本・小郡機関区の SL フォーラムで、山口短期大学の利根川貞夫教授(元・下松工業高校教諭)によって上映されて、大きな反響を得た。
1981	昭和 56 年 10 月	下工弁慶号の修復が完成して、下松工業高校の創立 60 周年記念式典で、公開運転された。	この記録フィルムは、その後、DVD 化されている。(栗田)
1987	昭和 62 年 9 月	(4/1 国鉄民営化実施) 岡山県・下津井電鉄(株)に貸出されて、同社の構内で、解体・完全修復作業が開始された。	9 月着手、12 月 27 日に完了して、始運転した。(この時に、サドルタンクが緑色に塗装されて、カウガードが取り付けられたと推定される。(文責・栗田))
1988	昭和 63 年 3 月	下津井電鉄の「児島駅舎竣工記念式」で、公開披露された。	当初は下津井駅～児島駅を往復運転の予定だったが、この間は曲線が多くて運転が困難な為に、下津井駅構内でのイベント運転に変更された。
1991	平成 03 年 4 月	下工弁慶号の所有権が、下松工業高校(山口県)から、「社団法人下松工業会」(同校の同窓会組織)に移管された。	9 月に下津井電鉄(株)から、下松工業高校に返還された。
	平成 03 年 10 月	下松工業高校の創立 70 周年記念式典で、公開運転された。	
1992	平成 04 年 12 月～	協同組合柳井総合卸センター(柳井市)へ貸出された。	1996 年 3 月までの 4 年間。この期間内に、下記のような貸出しがあった。
1993	平成 05 年 10 月	末武公民館祭へ貸出された。	イベントは 10 月 30 日～31 日の 2 日間。
1994	平成 06 年 4 月	下松市制 55 周年記念式、および「切戸川桜々フェスタ '94」に貸出され公開運転した。	55 周年記念は 4 月 1 日～4 日、桜々フェスタは 4 月 2 日～3 日。
1995	平成 07 年 3 月	中国電力(株)下松火力発電所の創業 30 周年記念イベントで、公開運転。	3 月 31 日～4 月 6 日の 1 週間。
	同年 12 月	(社)下松工業会が、下松市に寄贈する旨を申し出た。	
1996	平成 08 年 10 月	日立製作所笠戸事業所の創立 75 周年記念イベントに貸出。	公開運転と試乗会が開かれた。当会のホームページに、この時の写真が掲載されている。
1997	平成 09 年 11 月	(社)下松工業会が、下工弁慶号を下松市に寄贈した。市は文化財として管理する方針のもとに、下松市役所グリーンプラザで、「展示格納庫」落成式が行われた。	当時、米泉湖で「湖畔 1 周運転」が計画されていたが、最終的には、経費等の問題で実現しなかった。以後、左記の格納庫で展示、「静態保存」されることになった。
2004	平成 16 年 3 月～	三重県・桑名市の北勢線開通 90 周年記念事業に貸出された。	平成 19 年 7 月までの 3 年間、修理費先方負担という条件であった。
2007	平成 19 年 3 月	北勢線開業 90 周年イベントで展示された。	マスコミに弁慶号を公開。読売新聞の第 1 面で報道され、TV 愛知、中京 TV で放映された。その後、「動態復元披露式」を迎える運びとなった。(資料:ASITA の会)
	平成 19 年 7～9 月	「大鉄道博覧会」(江戸東京博物館)で展示された。	7 月 10 日～9 月 9 日、両国。弁慶号は全国の鉄道ファンの注目を集めた。
	同年 9 月	下松市役所グリーンプラザの格納庫に返還された。	「下工弁慶号」100 周年。
	同年 10 月	下松ライオンズクラブ主催で、「おめでとう 100 歳！下工弁慶号お祝いの会」が開催された。	市内の保育園や幼稚園児 300 人が「長寿」を祝った。地元 TV・マスコミなどが報道した。
2010	平成 22 年 1 月	「走れ！！弁慶号 PJ(プロジェクト)準備会議」が発足して、調査活動などを開始した。	
2011	平成 23 年 4 月	準備会議は「下松べんけい号を愛する会」と改称し、現在に至る。 なお、この会の内容は、 <a href="http://benkeigo.org">http://benkeigo.org</a> を参照下さい。	(付記)この年表は、2012 年 6 月現在までの入手資料による。

お礼のこたば : 2010 年は「下工弁慶号」にとっては、素晴らしい年でした。くだまつ観光・産業交流センターと「下松手づくり絵本の会(代表 金井道子氏)」ほかの方々の御厚意によって、弁慶号をテーマにした「絵本 はしれ！べんけいごう」とこれを基にして加工した「紙芝居&DVD」とが制作されて、公開されました。これらの関係者のみなさまのご厚意に対して、心からのお礼を申し上げます。

また、この年表の殆どの記事は、(社)下松工業会のホームページに依拠しています。この中の資料の殆

どは、市川五郎氏の、実に永年にわたる資料収集と整理の成果です。それとともに、これらの資料をホームページ上に再編集して公開した(社)下松工業会の関係者のご努力に感謝いたします。また、この年表の作成のために、このホームページデータを転載することを許諾いただきました事に、重ねてお礼を申し上げます。

アピール : わたしたちの「弁慶号」は、「もの造りのまち」下松市にとっては、数少ない「近代化産業遺産」です。下松べんけい号を愛する会は、この大切な遺産の復元モデル機を製作して県内各地で公開運転しようという市民活動です。

「絵本」の末尾にもありますように、「ぼく みんなといっしょに また、はしりたいです！！」という、「べんけいごう」の願いが、近い将来に実現することを、私たちも願っています。

あなたにも、この活動にご参加いただくと、大変、嬉しく思います。

資料提供者 : 社団法人下松工業会、下松工業高等学校、市川五郎 氏(元、下松工業高校教諭、現在、下松市花岡在住)

編集・著作 : くだまつ観光・産業交流センター & 下松べんけい号を愛する会  
(当会に無断での資料転載は、ご遠慮願います)